

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100758		
法人名	医療法人 高信会		
事業所名	真ごころグループホーム	ユニット名	1号館
所在地	宮崎市大字郡司分乙802		
自己評価作成日	平成31年 1月15日	評価結果市町村受理日	平成31年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&jigyosyoCd=4590100758-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成31年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は高台にあり見晴らしが良く、ホールからの眺めが壮大で開放感がある。玄関前に遊歩道を設ける事で入居者の行動を制限する事無く、自由に散歩や気分転換をして頂いている。また、お一人おひとりに合った関わりを多く持ち、馴染みの関係を築く事に努め、入居者のサインや些細な変化にもいち早く気づき、職員間で情報を共有しサービスの質の向上を図っている。母体は医療と介護の複合施設を持つ辰元病院であり、連携を図りながら利用者様の身体状態の把握、健康管理に努めている。同じ敷地内にある施設や地域の方々との繋がりを図ることで地域に根差した施設を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体は医療と福祉の複合施設を持つ病院であり、ホームは系列の介護付有料老人ホームと隣接し、相互に連携して運営している。管理者や職員は、利用者が安心して生活が出来るように利用者寄り理解しようと努め、利用者職員が一緒になって生活しながら利用者の心身の生活拡充支援を行っている。利用者の喜び、楽しみのある暮らしを支え、馴染みの習わしを楽しむ地域外出支援や通信・家族等の訪問・家族協力支援などを計画し、その人らしさを引き出すよう努めている。また、働きやすい環境や法人内外での人材育成にも努め、ケアの実践に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット理念は、ホールに提示しユニット理念に基づいたケアは実践出来ている。理念については毎月1回のミーティングで確認しながら、業務の中で常にユニット理念を意識している。ネームプレートの裏に理念を携帯し、常に理念を意識している。		管理者は理念を基に、職員へ助言、指導、情報提供を行い、毎月の勉強会で理念を共有するよう取り組んでいる。また、日々の実践を学びの機会として、理念を意識できるように工夫をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	秋祭りを計画し、同じ敷地にある施設と合同で地域のボランティアや子供会、消防団の参加を募り、地域との交流を図っている。また、近くのスーパーと一緒に買い物に出掛け、日常的に地域との交流を図っている。		隣接の施設と連携して、行事など開催する場合は、地域住民や子ども会、ボランティア等に働きかけて交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域や社協の催し物に参加させて頂き、集まった他の参加者とのゲームや会話をしていく上で、認知症に対する理解は得られている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実態、改善問題点への取組状況、事故やヒアリハット、にやりほっとの報告を行い、そこでの意見を頂き、サービス向上に活かしている。		その時々話題に沿った議題をあげ、会議の活性化を図る取組を行っている。参加者から出された意見をサービス向上に生かすよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者との連絡や協力関係は、母体の本部が行っており、連携を図り情報の共有をしている。市の開催している研修会等に参加し、協力関係を築くよう努めている。		市の担当者との連絡や協力関係は、母体本部が行い、本部から必要情報がホームに伝達される。市主催の研修会等に参加して協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議の中で「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を含めた内容の勉強会を年に1、2回行っている。玄関の施錠をする事なく自由に、遊歩道等を散歩され、気分転換を図られている。		研修や勉強会で身体拘束の弊害を理解しながら拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	会議の中で「高齢者虐待防止関連法」を含めた勉強会を年に1、2回行っている。認知症に対する理解を深め、認知症の方の立場に立ったケアを実践する事で虐待防止の徹底を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議の中で、日常生活自立支援事業や後見人制度について、定例会等で学ぶ機会を設け理解を深めている。また、後見人様との連絡・連携を密に取り、状態や情報の共有を行っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、不安や疑問点を尋ね、納得され、かつ安心して利用して頂く様に努めている。また、改定があった時は速やかに連絡と説明を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族がいつでも要望や意見が言いやすいように、話やすい雰囲気作りと管理者室に意見や苦情を投かできる箱を設置している。	双方向の関係づくりに努め、運営推進会議に家族の代表者が参加し、意見や要望を表せる機会を設けたり、利用者の状態報告を家族に連絡している。出された意見は、迅速に職員間で話し合い、対応するよう取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案が誰でも言える施設内の雰囲気作りを努めている。その他、定例会やユニット会は勿論それ以外でも会話する機会を十分に取っている。	毎月の職員会議や日々のケアの中で、職員の意見や要望を聞く機会を設け、サービス向上に反映させるよう取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの実績や勤務状況、努力等を把握している。また、年に2回の個人面談を設け目標や向上心を持っているか、自覚ややりがいがあるか等を確認しながら、就業を含めた職場環境の整備を行っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務の中で職員一人ひとりの力量を把握し、その人に合ったトレーニングを行っている。また、意識や介護技術向上の為に、外部での研修を受ける機会を増やしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流や相互訪問の機会を増やし、サービスの質の向上やスキルアップに向け取組をしていきたい。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面会時に、御本人様が少しでも安心出来るような対応に努めている。また、入所時は環境の変化で不安がある為、関わりを多く持ち少しでも不安が軽減出来るように、寄り添いと傾聴に努める。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時、家族様が抱えている問題を出来るだけ理解し安心出来る支援方法を一緒に考える。支援内容は、適宜報告している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様と御家族様が必要としている支援を見極める為に、傾聴と常日頃の細やかな観察に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員が共に支え合って喜びや楽しさを分かち合える関係の構築に努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様の状況を踏まえたうえで、可能な限り協力をして頂けるような、信頼関係が出来るように努める。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はいつでも気軽に来て頂けるように、施設の雰囲気作りに努めている。また、馴染の場所や人などの関係が途切れないように、年賀状等を出す支援をしている。	家族等の訪問や馴染みの商店での買い物、地域の人達との会話や地域の習わし事への参加、知人との葉書のやり取りなど関係継続の支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関わり合いや支え合う大切さを、少しでも実感出来るように、話やすい利用者同士が安心して安全にゆっくり話す事が出来るように、さりげなく見守りを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後は、転居先に情報提供を行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で表情や会話の中で利用者様の思いを感じたりしたことを、職員間での情報の共有や意見交換を行い、日々のケアに活かしている。御家族様よりの情報の提供や意見交換は出来ている。	寄り添うケアの中で、利用者の言動から、その思いを十分にくみ取することを心がけている。また、家族や関係者からの情報も収集し、職員間で情報の共有を図り、意向の把握が困難な場合は、本人本位に検討するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査よりの情報を基に御本人様や御家族様からの意向を探り、生活が継続出来るように努める。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で常に情報の共有を行い、身体状態の把握や変化に気付けるようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人様・御家族様・職員から意見を聴き、御本人様にとって何が重要かを担当者会議で話し合い、現状態にあった介護計画を作成している。随時見直しを行い、御家族様からの要望を伺い、介護計画の見直しをしている。	本人や家族と話し合い、職員や関係者の意見を反映した利用者本位の介護計画を作成している。定期的にモニタリングを行い、状況の変化に応じて適切に見直しを行うよう取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の身体状態の様子やケア内容、気づき等は、個別に記録し定期的に評価を行い、変化がある場合は介護計画の見直しをしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族様に協力を頂き、医療機関や専門職のアドバイスを受けながら連携を図り、個人のニーズにあった支援が出来るように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや社協から情報を貰い、地区の行事参加やボランティアの訪問をして頂く。定期的にご家族以外との交流の場は設けている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に細かな情報提供を行い、指示を仰いでいる。受診が難しい方には、無理の無いように定期的往診へ切り替えを行っている。	利用者や家族が希望する医療機関で受診することができ、母体の病院等からの往診も定期的にある。他科受診時は、家族や、職員間で情報の共有化を図り、適切な医療が受けられるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な状態変化や気づきがあれば病歴との関連性や可能性を考え看護師へ報告している。看護師は昼夜問わず電話にて報告、指示を仰いでいる。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、介護サマリーを作成し、情報提供を行っている。入院中は出来るだけ面会に行き、病院関係者と情報交換を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重症化した場合における対応の指針を説明し理解を頂いている。また、重度化した場合は主治医と密に連携を図りながら御家族様、職員間で話し合い、方針を決めている。	利用開始時に指針を示し、同意を得ている。重度化および看取りについては、利用者の状態によってホームで出来ること、出来ないことを踏まえ、母体病院等と連絡を図り、随時、利用者や家族の意思を確認して支援するよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルの見直しを定期的に行いつつ、救急蘇生法などの外部研修に参加し個人の知識や実践力を身に付けている。また、勉強会等もやっている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	毎月1回のユニット別の避難訓練と年に2回の総合訓練を実施している。色々な状況を想定し課題の把握と改善が出来るように努めている。地元の消防団にも参加して頂いている。	避難訓練に地元消防団も参加して、地域住民との協働体制づくりに取り組んでいる。毎月1回のユニットごとの避難訓練と年2回の総合災害訓練を実施している。非常用食料・備蓄の準備がある。		

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格やペースを尊重し本人の意思とその人に合った支援を提供している。		利用者の気持ちを大切に考えて、さりげないケアを心がけたり、丁寧に、自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者の表情や仕草、行動を見守り、御本人が自己決定がその都度出来るように、働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は自分の常識にとらわれる事無く、常に本人の意思や気持ちをくみ取った支援を行う。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時の着替えの洋服を選んで頂き、御本人の意向を取り入れながら支援をしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のレクリエーション時に、メニューを発表をしている。又、利用者の好みや摂取状態を把握し、取りやすい形態や代替メニューの提供をしている。定期的に、寿司の日やおでんの日、めんの日等を設けている。		主食とみそ汁をホームで作り、副食は、母体本部から運ばれる。職員は、利用者に話しかけたり、介助をして、下膳も一緒に行っているが、利用者と職員が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるまでには至っていない。	ホームの基本である、共に暮らすという点から、一緒に食事を楽しむことの意味は大きいので、利用者と職員と一緒に同じ食事を楽しめる環境づくりを検討することに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックを行い、一人ひとりの状態の把握をしている。個人の好みに合わせ、コーヒーや食べやすいお菓子等を提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は勿論、すぐに実施出来ない時は出来やすい時間に口腔ケアを行う。自ら行えない方には、場所や時間を考慮し適切に支援を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターン、表情や、言動を把握し出来るだけ早く察知し、トイレ誘導する事で、失敗の軽減に努める。支援時は、プライバシーの保護も出来ている。		排せつチェック表や利用者の表情、言動から排せつパターンを把握して、可能な限りトイレで排せつできるように自立に向けた支援をしている。また、紙パンツや尿取りパッドの量を減らすよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を細目に行い、食事は管理栄養士が栄養のバランスを考えた食事提供が出来ている。散歩やラジオ体操等を取り入れ予防に努める。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人が入りたい時に、出来るだけ対応出来るようにしている。また、拒否がある場合は無理をせず時間をずらしたり、職員を交代等、本人がリラックス出来るような雰囲気作りをし、入浴して頂く様に、心掛けている。	本人の希望や気持ちを優先させた入浴を支援している。個別の入浴支援を行い、利用者の心情を察した配慮をしている。入浴剤や音楽を流し、くつろいで入浴が出来るように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は出来るだけ安眠して頂けるように居室内の環境の工夫に努めている。自分で休息が取れない方には、声掛けや支援等を行う。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬がある方には、手渡し、飲み込みまで確認を行っている。チェックも複数回言い誤薬が無いように努めている。また、薬の効能や副作用と、目的等の理解をしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの趣味や興味等を見つけ、喜びや楽しみ等がある生活をして頂いている。天気が良い日には、季節感を味わえる場所にドライブに行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	玄関は施錠せず、利用者は自由に外へ行く事が出来、遊歩道があるので安心して歩かされている。また、玄関前にベンチを設置しており、休憩を取ったり話をされている。御家族の協力を頂き、外食や外出等の支援をしている。	五感刺激が得られるように、玄関前の遊歩道での散歩を支援し、買い物、地域行事への参加や、また家族の協力のもと外食や外出等の支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は、施設で行う。可能な方は、お金を渡し、買い物をする楽しさやお金の大切さを感じて頂く。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が、利用者の前でダイヤルを押し電話をかける。この時、話して頂く事もある。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット内にソファを2ヶ所設置しつろげる空間を提供と、温度・湿度測定計をホールに設置し管理している。季節感にあつた絵等を作成しホール内に掲示している。	生活空間は、違和感や圧迫感が感じられないよう配慮し、利用者同士で自由に過ごせるよう居心地よい空間作りの工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	光が強い日は、カーテンを閉めたり、ホール内はテーブルや椅子、ソファ等の位置の把握と配置の工夫を行う。安らぎの場(会議室)を日中はオープンにしておき、自由に使用が出来る。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族の協力により、テレビ、馴染みのある物や本人が好きな物等を置いて頂く。ゆっくり出来、居心地良く過ごせるように工夫を行う。	使い慣れた家具や椅子、生活用品、装飾品が持ち込まれ、安心して過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット内の物の把握に努め、安全に生活が出来るようにさりげなく見守りを行う。自分で出来る事はして頂く。また、場所が分からない所は、用紙に見えやすい表記で、見えやすい場所に貼り分かりやすいようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容